

第12期 第7回国立市ごみ問題審議会 議事録

日 時 令和3年（2021年）5月31日（月）午後2時00分～午後4時30分
場 所 国立市役所北庁舎 第7会議室
出席者 山谷会長、山崎副会長、内海委員、楠田委員、隈井委員、田中委員、十松委員、速水委員、
山岸委員（委員は50音順）
事務局 清水ごみ減量課長、豊島清掃係長、河内清掃係主査、岡田清掃係主事、新清掃係主事

【議事要旨】

1. 国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく進捗状況の評価について

資料に基づき、国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく進捗状況（2020（令和2）年度実績）の行政による評価の（1）家庭系ごみの減量化・資源化の1）発生抑制について事務局から説明した。

【山谷会長】 1）発生抑制の①ごみ減量協力店の利用促進について、ご意見をお願いします。

【十松委員】 ごみ減量協力店とエコショップ制度との統合について、具体的に一本化する考えはあるのでしょうか。

【事務局】 具体的に一本化する考えはありませんが、今後検討する必要があると思います。

【十松委員】 ごみ減量協力店が富士見台地域に偏っているように思います。他の地域に対して、重点地区を設けて協力を呼びかけると良いと思います。

【事務局】 ごみ減量協力店が富士見台地域に多い理由について、富士見台地域の商店街の方が、ごみ減量協力店制度に賛同し、積極的に周囲へ声かけしてくれたからと聞いております。エコショップ制度についても、積極的に商店街等と連携して周知していければと思います。

【楠田委員】 ごみ減量協力店について、昨年度39店舗から令和2年度35店舗へ減少していますが、どこまで協力店の数があれば、満足なレベルなのかを検討する必要があると思います。

最新のデータではないが、国立市内の小売店舗数は約490弱程度。その内、飲食料品店が約150弱程度という統計数値がある中で、ごみ減量協力店が35店舗というのはまだまだ少ないと思います。特に富士見台地域以外でもごみ減量協力店が増えるよう努力してほしいです。

エコショップ制度は、13店舗ほどの大型小売店が加入していることもあり、ごみ減量協力店制度とはカテゴリーが異なると思います。ごみ減量協力店制度とエコショップ制度を統合するのであれば、うまく区分をすべきであると思います。協力店を増やす方法については、層や地域を絞り客観的な議論をしたうえで考案すべきであると思います。

【田中委員】 ごみ減量協力店制度が始まったころ、周りの方たちと一緒に協力の呼びかけをしました。国立商工会に参加している商店は、割と協力してくれた印象です。国立商工会が実施しているくにたちカード制度に加盟をしていない矢川地域や西地域などのお店は、ごみ減量協力店から外れていることが多いと感じました。富士見台地域に協力店が多いのは、理由として商工会の協力もあると思いま

す。商工会と一緒に呼びかけなど出来たら良いと思います。

【山谷会長】審議会の評価としては、毎年度、各店舗の取組状況を点検し、その分析に基づいて、取組の強化を個別に各店舗に働きかけてほしいというところでしょうか。協力店を増やすことについては、地域的課題があることを考慮しながらこの制度の利用促進を図っていただきたいというところでしょうか。

【山谷会長】②マイバッグ、マイ箸等の利用促進について、ご意見をお願いします。

【隈井委員】コンビニ3店舗の店頭でのマイバッグキャンペーンの実施は2020年が初めての実施でしょうか。今後はコンビニの実施店舗数を増やしてほしいと思います。また、不燃系資源物のごみ出しについて、ごみ袋の代わりにカゴを使用してどのように出すのでしょうか。

【事務局】マイバッグキャンペーンをコンビニで実施したのは令和2年度からです。ごみ出しのときにカゴを使うというのは、レジ袋削減の観点からビン・カン・ペットボトルを出す際にご自身で用意したカゴにできるだけ出して頂くということです。

【隈井委員】分かりました。どこかの行政で、コンビニの有料袋を行政指定の有料袋としていたところがあったと思います。コンビニの場合、マイバッグを持参しないケースは多いと思います。レジ袋の削減に関してはマイバッグの持参が一番だが、コンビニが扱う袋を指定有料袋の1枚ずつ売りにすることができればそちらを買う人も出てくると思います。そういうキャンペーンに切り替えることも将来的には考えてみてはいかがでしょうか。

【内海委員】マイバッグの代わりに、国立市指定有料ごみ袋を1枚ずつカバンに入れておけば、レジ袋削減に資すると思います。国立市指定有料ごみ袋のばら売り対応が可能なスーパーやコンビニが幅広くあれば良いと思います。

【山谷会長】国立市は容器包装プラスチックに占めるレジ袋の割合について、直近5年間で6%から2%弱まで低下しています。審議会の評価としては、レジ袋有料化の実施に併せ、マイバッグキャンペーンを強化したことが結果に表れていることは評価できるというところでしょうか。

【山谷会長】③厨芥類の水切りの促進について、ご意見をお願いします。

【山崎副会長】令和2年度の市民1人1日当たりの可燃ごみの収集量について、新型コロナウイルスの影響による増減はありましたか。

【事務局】令和元年度に比べ、令和2年度の可燃ごみの収集量について4%増加しました。市民1人当たりの可燃ごみの収集量については3.7%程度増加しました。ごみの収集量が10%程度増加している自治体もあると聞きますので、国立市は新型コロナウイルスの影響による可燃ごみの収集量の増加はそこまで多くはないと思います。

【楠田委員】国立市のホームページなどで使用しているエコ・クッキングという言葉は企業の商標と思いますが、使用許可などは取っているのでしょうか。

【山谷会長】3年ほど前にも同様の質問がありました。企業の担当部長から使用許可の確認は取れています。

【隈井委員】食品ロスの観点から厨芥類を減らす必要があると思います。食材を多く買いすぎている等の入り口の問題であると思います。

【山谷会長】国立市も行っていますが、環境イベントや街頭で水切りネットを配布するなどの啓発を

継続することは有効であると思います。審議会の評価としては、水切りネットの配布を含め、水切り啓発事業をさらに強化していただきたいというところでいかがでしょうか。

【山谷会長】④生ごみ処理機器の普及促進について、ご意見をお願いします。

私は国立市がミニ・キエーロを考案したことは高く評価できると思います。しかしながら、最近ではミニ・キエーロのモニター参加者が減っている現状です。今後は、生ごみ処理機器に関心の薄い市民等の新しい参加者を増やすような広報に注力してほしいと思います。

【山崎副会長】ミニ・キエーロについて、何をやっていいかが分からないという意見をよく聞きます。例えば小学校や幼稚園、保育園のお母様が集まるような会で、ミニ・キエーロの使い方や利点を説明するなど、広報の仕方を工夫することが重要だと思います。

【内海委員】ミニ・キエーロを小学校に設置することにより子供だけでなく、授業参観時に親への波及効果も期待できると思います。

【山谷会長】他の自治体でミニ・キエーロという名前を使用しているところもあり、他の自治体が考案した生ごみ処理機器であると勘違いしている人が多いです。ミニ・キエーロという名称を「くにたちキエーロ」にするなど、国立市にはミニ・キエーロの名前を宣伝してほしいと思います。

【速水委員】生ごみの水分量や大きさによって発酵分解されるまで時間がかかる等、結構手間がかかると聞いております。

【山谷会長】府中市ではキエーロのモニター参加者に、どのようなものをどれだけ投入したかを事細かく調査しています。モニター参加者の意見として、虫が湧く、においが気になるといった声がありました。この原因は生ごみの入れすぎかもしれません。使い方をアドバイスする人が必要であると思います。

【内海委員】ミニ・キエーロについて、生ごみ量を多く入れすぎたことと、土の量が少ないことにより虫が湧いてしまった経験があります。市からもらった微生物製剤アスカマンを使用したり、ぬかを入れたりいろいろ工夫しましたが、結局市民農園を借りて、農園の畑に埋めるのが一番早かったです。

生ごみは臭いや虫が出るので、ベランダだと大変でした。生ごみを城山さとのいえに持参すると発酵させてもらえる等、他課と連携することも必要かと思います。ミニ・キエーロをベランダだけで使用することは限界があると思います。

【隈井委員】私はベランダでキエーロを使用しているが、生ごみを入れる量は調整が必要です。冬場の分解速度は特に遅いので、生ごみの多くは仕方なく生ごみとして処理しています。

キエーロで分解されなかった生ごみは水分が抜けていて、厨芥類として優秀だと思います。取り出して生ごみとして捨てずに、土に捨てたほうが良いのか迷うことがあります。

【山崎副会長】ミニ・キエーロの分解速度を速めるには、とにかく細かくすることが大切です。食品はすべてが微生物によって分解されると思います。ミニ・キエーロの使用者の失敗談や工夫をホームページや動画で配信することも普及促進につながると思います。

【山岸委員】自宅でミニ・キエーロ使用しているが、何を入れているのか分からない状態です。例えば、ドレッシングにまみれたレタスを土に入れると塩分が高まってしまい発酵されないのかなと思ったのですが、塩分についてはいかがでしょうか。

また、審議会の評価の部分に、ミニ・キエーロの促進に加え、具体的な利用方法やQ&Aなども盛り込んでほしい。

【山谷会長】塩分が分解されてなくなるということはないと思います。しかし、一般的な調理で使用する程度の塩分濃度なら分解に支障はないといわれています。廃食油も分解され見事になります。廃食油は発熱効果もあり、冬場でも分解が促進されるということもあるようです。審議会の評価としては、コロナ禍の外出自粛で生ごみ自家処理への関心が向く状況の下、ミニ・キエーロの広報を積極的に行って、利用者を増やしていただきたいというところでいかがでしょうか。

【山谷会長】⑤グリーン購入の促進について、ご意見をお願いします。

【十松委員】学校などの教育現場でグリーン購入について、どのように意識し、実施されているのか教えてください。

【事務局】市内の公立小中学校は11校あり、グリーン購入法適合商品を扱う業者リストは情報共有されていると思います。どの程度購入されているかは把握しておりません。

【山谷会長】市役所の本庁舎及び市の機関についてはグリーン購入の方針は徹底されていると思います。審議会の評価としては、市民や事業者への周知、広報を進めていただきたいというところでいかがでしょうか。

資料に基づき、国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく進捗状況（2020（令和2）年度実績）の行政による評価の（1）家庭系ごみの減量化・資源化の（2）再使用から（3）直すについて事務局から説明した。

【山谷会長】（2）再使用の①リサイクルインフォメーションの利用促進について、ご意見をお願いします。

【楠田委員】国立市と㈱ジモティーとの連携協定についてですか、市と該社との金銭取引は生じますか。また、国立市内の不用品に限るといった制限はありますか。

【事務局】金銭は生じておりません。国立市内での取引をマッチングさせるため、市民が出した不用品とは限りません。

【楠田委員】国立市内でリユースが進むかどうかが大事であると思います。会社と市が連携し、内容を調整していくべきだと思います。

【山谷会長】リサイクルインフォメーションというのは、譲りたい物の写真を本庁舎の掲示板に張り出し、それを欲しい市民へ情報を提供するということです。時代とともに掲示板による成立件数は少なくなり、不用品のマッチング事業を行う民間企業の参入もあり、そちらを利用する人が増えてきていると思います。そこで、市役所の掲示板に限定せず、①リサイクルインフォメーションの利用促進と②フリーマーケット等の支援を統合しても良いと思います。

【隈井委員】協定書内の連携協力事項について、リユース活動を促進するための企画立案に関することとあるが、具体的にはどのような内容でしょうか。例えば、オンラインとオフラインでフリーマーケットのようなものを同時に開催するみたいなことも考えていたら良いかと思います。

【事務局】現時点では未定です。今後検討の余地があるかと思います。

【山谷会長】神奈川県逗子市では、市民団体が市の施設を借りて、市民がおもちゃ等の不要になったものを持ち込み、必要なものを持ち帰るといった物々交換のマッチングサービスを10年程度実施しているそうです。利用者が結構多いようです。

【田中委員】消費者団体連絡会のほうで、リサイクルを考える会を立ち上げ、市内在住在勤者向けに、不要な洋服を譲り、または譲り受けることができるイベントを年2回以上行っています。

【楠田委員】市役所と㈱ジモティーとが連携し、柔軟に企画立案してほしいです。

【山谷会長】審議会の評価としては、民間のリユースマッチング事業との提携でリユースの取組の幅を広げたということは、評価できると思います。これからは、新しい企画を市とジモティーと連携して進めてほしいというところでいかがでしょうか。

【山谷会長】②フリーマーケット等の支援について、ご意見をお願いします。

【楠田委員】ジモティーを活用し、フリーマーケットの出店情報などを発信することができれば、イベントが活性化されるのではないかと思います。

審議会の評価としては、民間事業者と連携してフリーマーケットの情報発信の支援を引き続き展開していただきたいというところでいかがでしょうか。

【山谷会長】③リサイクル家具等販売の推進について、ご意見をお願いします。

【山岸委員】コロナ禍にも関わらず、北市民プラザでリサイクル家具販売会をやっているのを見かけてとても感動をしました。継続することはとても良いと思います。

【隈井委員】家具について、イケアがリサイクルに力を入れているそうですが、市では民間企業の動きをどう考えますか。民間が引き取るならば積極的に利用してほしいのか、民間が引き取った後の処理の行方が分からないため、市のリサイクルを利用してほしいのかいかがでしょうか。

【事務局】イケアのリサイクル方法の詳細は分かりません。リサイクル家具販売については、粗大ごみとして出たものを修理し再使用する為、粗大ごみとして出る前段階で事業者による回収が可能ならばそちらのほうが望ましいと思います。

【隈井委員】特定の事業者名を明記することは難しいかもしれないが、粗大ごみのパンフレットに事業者による回収を積極的に活用してくださいと書くことは良いと思います。

【事務局】市の回収のみに拘らず、事業者の取り組みの情報を提供していくということは今後検討の余地があると思います。

【楠田委員】ゆーからについて、一橋大学や津田塾大の学生たちと市が協働して運営していて面白いと思います。一方で、市役所が仮称のリサイクルプラザをつくる等の動きを進めることによって、ゆーからの活動を奪うかもしれないと思います。民間企業やNPO法人、学生との連携をより大切にすべきだと思います。

また、リサイクル家具販売について、中古品をその場で売るだけでなく、レンタルするなどの循環のさせ方もビジネスモデルとして広がってきていると思います。

【山谷会長】審議会の評価として、市民生活にリユースが定着するよう、引き続きリサイクル家具、自転車の販売を実施していただきたいというところでいかがでしょうか。

【山谷会長】3) 直すの①修理、修繕行動の促進について、ご意見をお願いします。

【十松委員】行政による評価について、昨年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、おもちゃ病院を実施できなかったにもかかわらず評価Bとなっています。評価できないというほうが正しいのではないのでしょうか。

【山谷会長】昨年度のみの評価ではなくて、直近5年間を通じての評価となります。

【山崎副会長】本項目を数値により評価することは難しいと思います。実際に私たちに何ができるかということで、リペアに関する情報を発信するというのも1つの重要なポイントであると思います。実際に、市内には洋服や靴等の修理専門店があります。こういった情報を発信するなど、捨てる前にひよっとしたら直せるかもしれないと思ってもらえるようなきっかけを作ることが大切であると思います。

【山谷会長】リペアについては、情報を発信し認知度を高めていくということが非常に重要であると思います。おもちゃはおもちゃ病院で修理していただけるということがどれだけ一般の市民の間に広まっているのだろうかと思います。

【隈井委員】最近では廃プラスチックに関する話題が注目されていますが、プラスチック製品の修理をするお店などは、現状少ないと思います。接着剤で繋ぎ合わせる程度ではないのでしょうか。今後どのような情勢になっていくのかを情報収集しつつ、市民へ発信していく必要があるのではないかと思います。

【山谷会長】審議会の評価として、物を大切に作る心の意識醸成、促進に寄与するリペアに関する情報の発信に注力していただきたいというところでいかがでしょうか。

【山谷会長】以上の施策に対する個別評価を踏まえ、今後の基本計画改定について、課題点をまとめます。リユースについては、①リサイクルインフォメーションの利用促進と②フリーマーケット等の支援を統合すべきと思います。ビジネスとしてAIやITを活用することと、3Rの分野というのは馴染みやすいと思います。民間の力を活用し、連携をしてこの3R施策を進めていく必要があると思います。その他、ご意見をお願いします。

【隈井委員】SDGsについて、特に若い世代は教育を受ける機会があると思います。その世代の意見を十分反映することも必要ではないかと思います。環境問題は長期的な問題であるため、若い世代の協力は不可欠ではないかと思います。

【十松委員】リペアについて、3Dプリンターならプラスチック製品を簡単に修理することができるのではないのでしょうかと思います。現状、3Dプリンターは高額だが、時代の変化に伴い安価になれば扱いやすくなるのかもしれない。時代の変化とともにリペアに関する環境も変化していくのではないのでしょうかと思います。

【山谷会長】3R分野での技術革新は速く進むと思います。技術進歩を積極的に取り入れていくことが大事であると思います。

【楠田委員】技術革新の話がありましたが、ディスポーザーを使用した生ごみの処理は虫が湧かず、臭いも気にならないためとても良いです。しかし下水道側へ負担をかけている気がします。例えば、下水道の技術革新が進めば、生ごみをまとめて下水道側で処理が出来るのではないのでしょうか。個人ではキエーロを、集合住宅ではディスポーザーを使用するというような仕組みを国立市で考えるべき

であると思います。

【山崎副会長】徳島県の上勝町が補助金を出し、家庭用生ごみ処理機器の普及率が97%となっているという報告があります。行政と市民がどれだけ折り合えるかが大切であると思います。廃プラスチック問題について、食品を生で買いたいものをそのまま買って帰られるよう、市民側にプラスチック包装を拒否する権利を与えたら良いと思います。日常生活において、少しでも環境に優しい行動を出来ることが広まれば良いと思います。そして、行政、事業者、市民が寄り添うことができる仕組みづくりを考えていけたらと思います。

【田中委員】消費者団体と事業者で長期にわたり話し合いをすることで、卵パックのケースの材質をプラスチックから紙へ変更することを考えてくれたことがありました。レジ袋等何かに関しても行政、事業者、市民の三者で回数を重ねて打ち合わせる必要があると思います。

2. その他

(1) 次回以降の日程について

第8回は令和3年7月16日（金）14時から行うこととし、第9回は令和3年9月10日（金）14時から行うこととした。

— 了 —